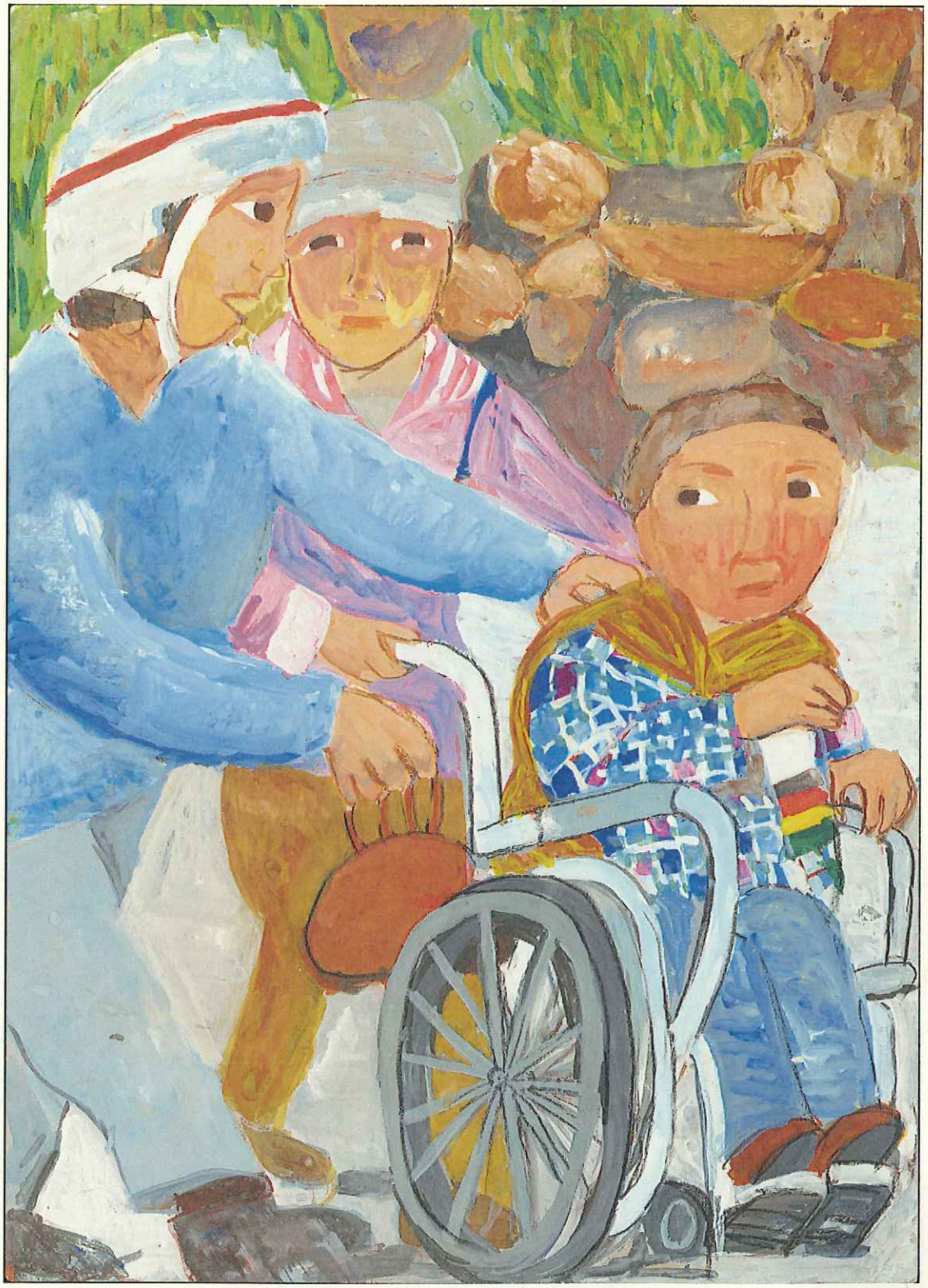
最優秀賞
（国土交通大臣賞）

（絵画・版画の部　小学校）



佐賀県佐賀大学文化教育学部附属小学校　5年

福島　さな恵

最優秀賞
（国土交通大臣賞）

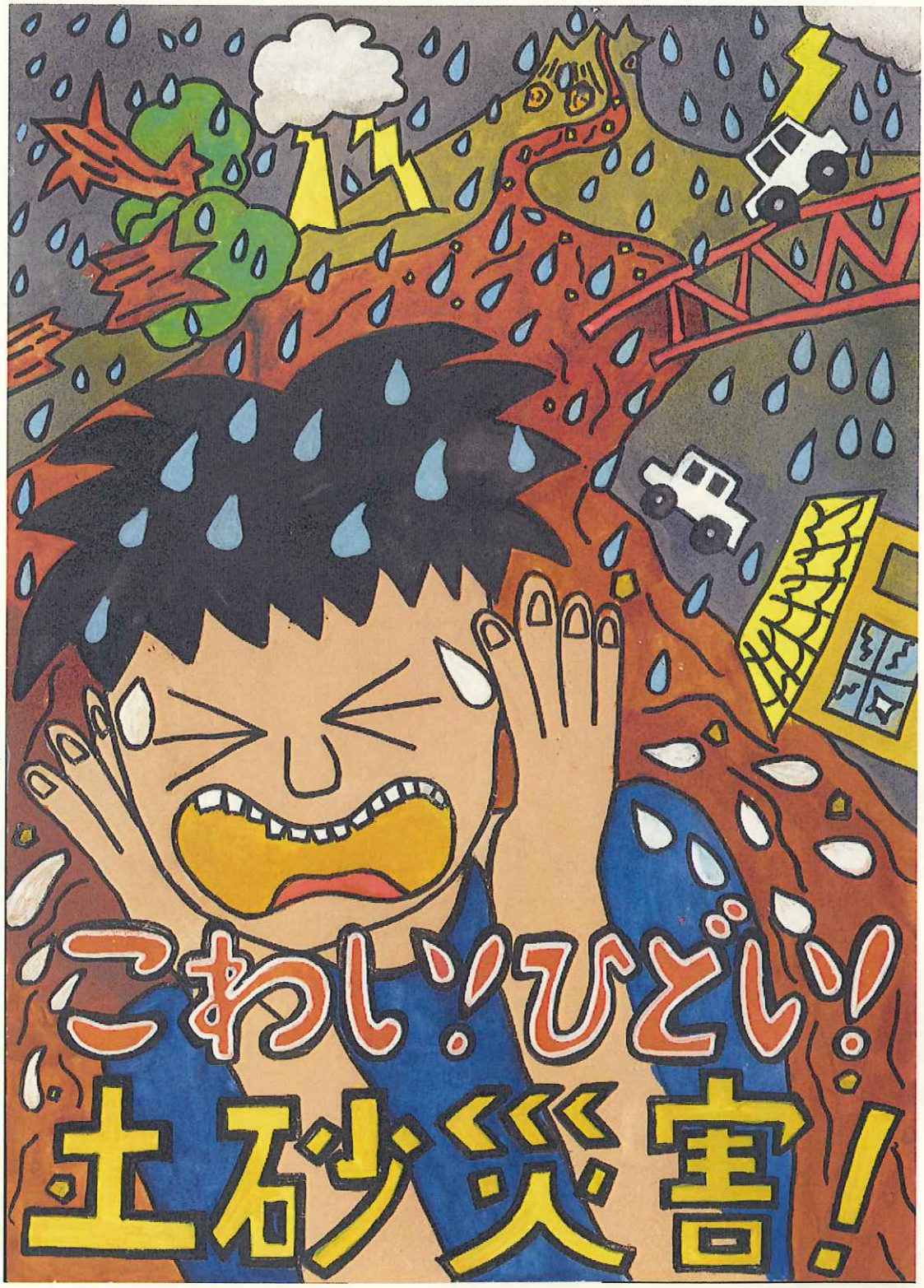
（絵画・版画の部　中学校）

福島県福島市立福島第一中学校　2年

森谷　祐子

最優秀賞
（国土交通大臣賞）

（ポスターの部　小学校）



富山県砺波市立庄南小学校　　5年

横山　輝

最優秀賞
（国土交通大臣賞）

（ポスターの部　中学校）

岩手県陸前高田市立第一中学校　　3年
小林　大輝

最優秀賞（国土交通大臣賞）
（作文の部　小学生）

『教室から見えるパイプを見て考えたこと』

【新潟県】糸魚川市立磯部小学校
四年生　丸山　あかり

私たちの教室のまどには、山の土手がせまっています。プールに向かう通路を一本こえると山の土手です。土手からは、校歌に歌われている城ヶみねに行くことができます。土手には、桜やあじさい、ドングリの木などが植えられています。だから、一年中、たくさんの花や生き物も集まってきます。

この土手に、不思ぎな水道があります。水ばんの高さは私たちの身長よりも大きいです。
ちょうど、学校の洗面所をたてに長くのばした形です。山からこの水ばんに、パイプが五本飛び出しています。いつも水がちょろちょろ出ていますが、水道のようなじゃ口はついていません。ただ、丸いパイプが山から飛び出しているだけです。私は、進級して教室が変わったときに、この水が気になり始めました。転勤してきた担任の先生も、

「あれなんだ。」

と、不思ぎそうにながめていました。でも、考えても考えても、何のための水道なのか分かりません。その水では誰も手を洗わないし、水も飲みません。でも、いつも水が少しずつ出ているのです。そこで、出てくる水の量に注意して見ていることにしました。

パイプは五本出ていますが、出てくる水の量は違っています。左の二本からたくさん出てきて、右の三本からは、少しずつです。コップにくんで見るととう明で、なんだか飲めそうです。思い切ってなめてみると、冷たくておいしい気もします。五年生が、山のけい流で見つけてきたわさびを育て始めると、少しずつ育っています。きっときれいな水なんだろうと思います。

梅雨になり、たくさん雨が降り始めると、流れ出る水の量も変わってきました。たくさん雨がふったパイプから勢いよく水があふれ出しています。いつもは出てこない右の三本のパイプからも、お風呂のじゃ口ぐらいの勢いで水が流れ出ています。雨がやんでも水の勢いは変わらず、やんで二日間ぐらいは勢いよく流れ出しています。でもそのうちに、またいつものように左の二本からだけ少しずつ流れるようになります。

この様子を見て、私はパイプの水は雨の量と関係しているのではないかと考えました。
雨がそっこうに流れると、すぐに川の水が増えるけど、パイプの水は、一度土の中にしみこんで、それが流れ出るんだと思ったのです。だから、雨がふってしばらくすると水がたくさん出始めて、雨がやんでも二日間ぐらいは、たまった水がたくさん流れ出ているのではないかと思ったのです。でも、本当は何の水なのか気になって、管理員さんに聞いてみることにしました。ちょうどパイプのそばで草取りをしていた管理員の中村さんに、「どうしてパイプがあって、水が流れてくるんですか。」と聞くと、中村さんは、

「この水は、山の中にしみこんだ水を出しているんだよ。」

と、教えてくださいました。私の予想が半分当たっていて、うれしくなりました。中村さんはその他に、雨が土の中にたまって、土砂くずれをおこすもとになるので、このパイプを使って外に出していることを教えてくれました。そういえば、私たちが学校にくる途中にも、何カ所も同じようにパイプが出ているところがあります。そこも同じように水が出ていて、どこも山がせまっているところです。

総合の勉強で、学校の横を流れている川に沿って、川の上流を調査しました。そこには、土石流防止のかん板が何枚もたっていました。また、学校よりも大きい土石流防止せきが作られていました。初めは、かん板やせきが何のためにあるのか分からなかったけれど学校の横のパイプのことを考えたのをきっかけに、上流のかん板やせきのことが分かってきました。また、せきの近くには、土砂くずれで通行止めになった場所もあります。今、学校の前の道は上の方で通行止めにして道路を直す工事をしています。学校の土手も、このパイプがなかったら、土砂くずれになってしまうのかもしれません。

私たちの学校のある糸魚川市は、この夏、「世界ジオパーク」ににん定されました。学校のある筒石地区も、「筒石・浜徳合ジオサイト」になりました。学校からは地そうがむきだしになったがけが見えます。ジオパークになってからは、地そうを見るために、何人ものお客さんがきて、私はうれしいです。たくさんのお客さんが来てもこんざつしなように、道路も広げてほしいけれど、山をけずりすぎて土砂くずれになるのはいやです。生活しやすいように、道も広げ、安全を守るために、このパイプやせきのような工夫も必要なんだなと、パイプを見て考えました。

最優秀賞（国土交通大臣賞）
（作文の部　中学生）

『生きていることに感謝』

【鹿児島県】出水市立米ノ津中学校
一年生　山　﨑　　聖　南

１９９６年12月15日。身長、50センチ、体重、2800グラムの元気な子が産まれました。その子の名前は山﨑聖南、私です。
私が産まれて、約半年がたった夏、7月10日に、私たちが住んでいる出水市針原で、土石流災害が起きました。夜中に起こった災害だったため、私たち家族を含め、みんなその頃寝ていました。

そのとき土石流で流された方々のなかには、自分の命を守るために、近くに浮いているベットや、たたみなどにつかまって、水の中からはい上がって助かった方もいます。そして、同じ家の中に寝ていても、寝ている場所、部屋によって、助かった人、助からなかった方がいたそうです。自分のとなりで子供が寝ていて、自分は助かったが、その子は助からなかったということまであったそうです。私はこのことを父、母に聞いたとき、自分の子供を亡くしてしまった方、家族の方を亡くしてしまった方がかわいそうでたまりませんでした。

その土石流災害のことは、新聞の記事にものりました。この土石流災害で落ちてきた石の大きさは私の家の大きさほどのものであったと教わりました。この土石流災害での死者は21名と聞き、なんてたくさんの方が亡くなったのだと思いました。

針原には、この災害で亡くなった方のための慰霊碑公園があります。そこには、石碑があり、私の父が書いた短歌がほってあります。
「針原の　みかんの里に　ふたたびの　花を咲かすと　みな誓いけり。」
という歌です。13年たった今、針原には本当にみかんの花がきれいに咲いています。この歌を書いた父やみんなの願いがしっかり神様に届いたのだろうと思います。

私はこの前、祖父と一緒に、慰霊碑公園に行ってみたとき、石碑に刻まれている亡くなった方の名前を見ていました。すると、一人の男の子の名前がありました。そしてその子の年齢は0才。私が0才のときに起こった災害なので、もし、その子が今生きていたら私と同い年の中学一年生だと思いました。

私は、慰霊碑公園に、お参りに行ったことが何度もあります。その時、私がいつも思うことは、もし、土石流災害がなくて、この方々が今でも生きているのであれば、どんな生活をしているのだろう、どんな方になっているのだろう、ということです。もしも、その赤ちゃんが生きていたら同じ中学校で、友達になっていたのだろうかなどと私は思います。

私の家族は、祖父も、祖母も、父も、母も姉も私も全員が今でも生きています。私のこれまでの13年間の中で、祖父がすごいなと思ったことがたくさんあります。その中で一番すごいなと思ったことは、土石流災害のときに、他の方の命を救ったということです。だれかに命を救われた方、自分でしっかり命を守った方、今でも生きていらっしゃる方には、亡くなった方の分まで、命を大切にして、これからも長く生きてもらいたいと、あらためて思います。

毎年、7月10日には、慰霊碑公園で、慰霊碑祭があります。その式では、お花を供えたり、お線香を上げたりして、お墓参りに似ています。でも私は、中学生なので、その式の日は学校があり、小さい頃にしかその式に参加したことはありません。でも、大人になったら、7月10日には毎年しっかり参加して、お花を供えたいと思っています。

この土石流災害が起こったとき、出水市針原の自治会長さんをやっていた古川守さんは、今年、病気のため亡くなってしまいました。古川さんは、土石流災害のときに、自分の家も被害を受けながら、亡くなった方や被害を受けた方々のためにがんばられ、復こうに全力を尽くされた方です。私はこの話を新聞の切りぬきを見たり、祖父などに聞いて、古川さんは、自治会のためにがんばっていたんだなと思いました。古川さんやみんなのがんばりや協力があって、針原はもとのように復こうできたのだと思います。

私は、今生きていられることを心からありがたいと思います。まずは、私を産んでくれた母に感謝し、私を13年間ここまで大きく育ててくれた祖父、祖母、父、母、家族に感謝しています。そして、これからもその感謝の心を忘れずに生きていこうと思います。お父さん、お母さん、家族のみんな、私が大人になってもずっと私を見守っていて下さい。

私はこれからも亡くなった方の分まで精一杯生きていきます。